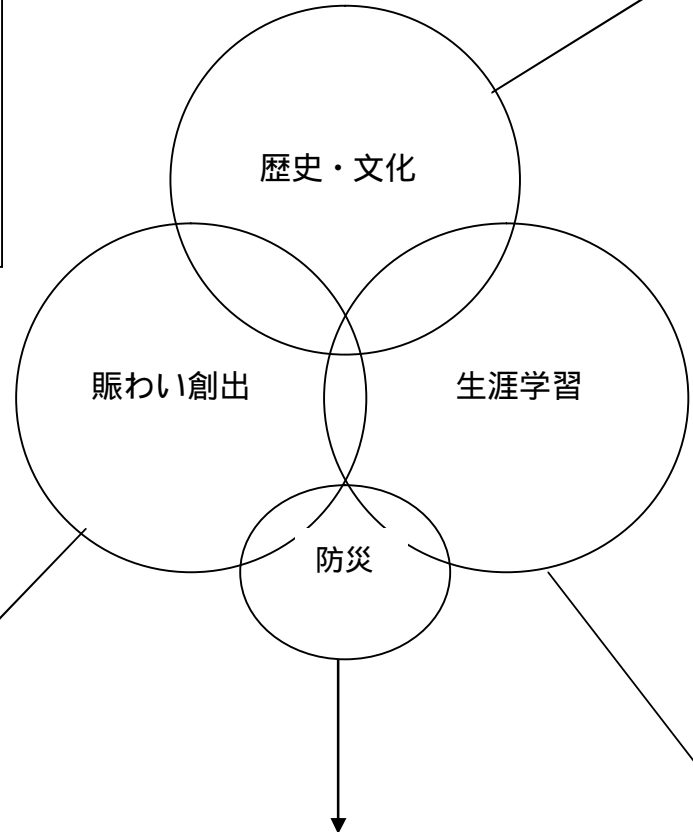


基本テ - マの組合せ検討シ - ト (第 5 回市民検討委員会に向けて)

基礎テ - マ緑

四つの輪は相互にリンクする。



周囲に、土居を復元すれば、法面には桜、側端には花菖蒲が最適。桜 = (樹齢と石垣への悪影響が心配される現在の桜の代わりになる) 花菖蒲 = (あやめ城を具現化できる) 年齢を問わず、市民・来外者へ安らぎと、憩いを与える。

記録に残る、新発田藩参勤交代の大名行列を表門経由大手中の門から、中心商店街へ出せる。  
藩主が、二の丸で台輪を御覧になったという記録もあるので、しばた祭りとは別の時期に、大手中の門～城址公園で台輪の巡行も模索できる。  
これらは賑わい創出に充分寄与できる。地域交流センター-駐車場でのイベント(台輪の一齐煽り等)の際は、当該地の駐車場が役にたつ。その反対の利用の仕方も考えられる。

大手中の門の復元により、伝統工法による本格的榊形門を体験学習できるし、同門～土橋門～表門のル - トが往時のまま再現できる。  
家老の溝口伊織家屋敷風の建物を建設し、内部は新発田藩領域の歴史資料の展示(堀部安兵衛コナ - も併設)・各種美術展示・食事・買物(物産品)・休憩の用に供する設備等を収容する。**複合利用**。  
上記へ、大倉喜八郎が創立した大倉集古館の国宝級の展示品をお借り出来れば、隣接する落谷紅児記念館、白壁兵舎との相乗効果が期待できる。  
**武家屋敷の早期復原**が望まれるが、場所については、文化財調査審議会等の専門機関の意見を聴取し、早急に結論を出すべきだ。  
駐車場入口は新発田～紫雲寺線側とし、大型バスに対応するために間口を広くとる必要有り。  
旧本丸と旧二の丸は、文化財保護法第 1 章第 2 条の 4 で定義する「城跡」であることは明白である。(当該地においては、二の丸の輪郭がそのまま残っている)したがって、本丸と一体的な活用を図ることで、歴史的資産価値を上げ、城下町の優位性を保つことができる。

避難先に限定する。(城址公園に準ずる)  
仮設住宅建設用地とはしない。  
堀を復元すれば、集中豪雨の際、調整池の役目を果たすことができる。

歴史・文化の項目で提案した施設内に、IT 化対応の大・中・小の会議室を併設することによって生涯学習に寄与できる。当該地にふさわしく「道学堂」(新発田藩の藩校)を再興すれば、城下町らしい生涯教育の新たな構築につながる。  
最近、生涯学習推進プランに基づいた更なる生涯学習振興が求められているが、既存の施設を**コア・ミュ - ジウム**・当該地の施設を**サテライトミュ - ジウム**と位置付け、より拡充を図るべきだ。

付 帯 意 見

各付帯テ - マに対するデメリットに、建設コストがかかる等の文言が見受けられるが、これは当該地における施設に限ったことではなく、全ての公共事業において共通することなので、再検討されたらどうか。

# 基本テーマの組み合わせ検討シート(第5回市民検討委員会に向けて...)

## ■ 緑化 (基礎テーマ)

- 維持費用がかかるため、その額を減少させる努力と当該地全体での収入の必要性

- 街のシンボルとして城下町の復活（櫓・門・堀・石垣・武家屋敷などの復元と復原）をメインにすることにより、新発田独自のプランニングの成立と他のテーマとの組み合わせによる相乗効果。
- 武家屋敷復原をメディアに取り上げてもらうことにより、市民の注目と市外への宣伝に。
- まちづくり交付金を利用することで、4割を国からの補助金で。

- 歴史博物館に体験学習室（伝統文化・技術・遊びなどを体験）や視聴覚ホール（文化財等の映像作品の上映・講演会・講座などを開催）。

- お堀を切ることによって水害時の調整池の役割。また、災害時にお堀の水を汲み上げ仮設トイレの水洗利用。

- 防災時の中心部の避難場所。

歴史・文化

賑わい創出

防災

生涯学習

- ハンドポンプ・災害用トイレ等を利用して市民防災体験。

- 歴史博物館に新発田の大火の歴史や資料を展示。

- 新発田城エリアが観光のスタート地点になる。歴史博物館には資料の他に地元の偉人や産業・観光ポイントの紹介があり、当該地から市内各所への散策が始まる。視聴覚ホールに映像コーナー（歴史や台輪・あやめなど季節の行事）。共通入館券の発行。
- 城下町新発田の復元により様々なイベントが可能。史実に基づき、新発田ならではのイベントを季節ごとに実施。《市民大茶会・輿入れ（結婚式）等》。

- 当該地とその周辺、そして、関連業態の経済活性化。
- 大型バス・観光客用駐車場を整備することにより、外来者の増加が見込める。
- 観光客に要望の多い飲食物販ゾーンをモール型にすることで、賃貸料からこの一帯の維持管理費を捻出。

- 新発田の歴史・文化を学ぶことにより、市民として自信と誇りを持つことができる。

# 基本テーマの組み合わせ検討シート(第5回市民検討委員会に向けて...)

